

|| 企業調査レポート ||

紀文食品

2933 東証プライム市場

企業情報はこちら >>>

2025年2月20日(木)

執筆：客員アナリスト

宮田仁光

FISCO Ltd. Analyst **Kimiteru Miyata**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

2025年3月期第3四半期は増収減益も通期は期初予想通り着地へ

2025年3月期第3四半期の業績は、売上高が82,756百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益が3,826百万円(同2.1%減)、経常利益が3,631百万円(同2.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益が2,468百万円(同1.7%減)となった。食品関連事業が好調で売上高は増収を確保したが、一般的にコストが増加したため減益となった。ただし、第3四半期業績の通期業績予想に対する利益進捗率が前年同期同様に8割台にあるため、おおむね想定内の推移だと推測される。なお、在外子会社等の収益及び費用の為替換算方法に関して、決算日の直物為替相場による円貨換算から期中平均為替相場による円貨換算に変更したことに伴い、過去業績を遡及適用した。この結果、遡及適用する前と比べ、2024年3月期第3四半期の売上高は487百万円減少、営業利益は37百万円増加、経常利益は40百万円減少、親会社株主に帰属する当期純利益は32百万円減少することとなった。

2025年3月期第3四半期業績

(単位:百万円)

	24/3期3Q		25/3期3Q		前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	81,575	100.0%	82,756	100.0%	1.4%
売上総利益	18,962	23.2%	19,489	23.6%	2.8%
販管費	15,055	18.5%	15,662	18.9%	4.0%
営業利益	3,907	4.8%	3,826	4.6%	-2.1%
経常利益	3,721	4.6%	3,631	4.4%	-2.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,511	3.1%	2,468	3.0%	-1.7%

※ 25/3期より会計方針を変更、過去業績を遡及適用した。24/3期3Qについては遡及適用後の数値を使用。
出所:決算短信よりフィスコ作成

日本経済は緩やかな回復基調で推移したものの、物価高の長期化から個人消費は力強さを欠き、先行き不透明な状況が続いている。そうした環境下、同社は、2024年4月にスタートした「中期経営計画2026」に基づいて事業を展開した。売上高は、新規顧客の獲得や既存顧客が物量増により食品関連事業が引き続き好調だったことに加え、国内食品事業も業況が回復してきたことで増収を確保した。一方、前年同期に比べて原材料価格が安定、海外の原価率も良化したが、エネルギー価格や運送費・海上運賃の上昇、事業活動の活発化、昇給、金利の上昇などにより様々なコストが増加したため減益となった。

2025年3月期第3四半期セグメント業績

(単位：百万円)

セグメント売上高	24/3期3Q		25/3期3Q		前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比	
国内食品事業	59,171	72.5%	59,228	71.6%	0.1%
海外食品事業	8,393	10.3%	8,364	10.1%	-0.3%
食品関連事業	14,010	17.2%	15,163	18.3%	8.2%

セグメント利益 (調整前)	24/3期3Q		25/3期3Q		前年同期比
	実績	利益率	実績	利益率	
国内食品事業	2,249	3.8%	2,278	3.8%	1.3%
海外食品事業	636	7.6%	662	7.9%	4.0%
食品関連事業	846	6.0%	972	6.4%	14.8%

※ 25/3期より会計方針を変更、過去業績を遡及適用した。遡及適用前と比べて、24/3期3Qの外部顧客への売上高は海外食品事業で487百万円減少、セグメント利益は海外食品事業で37百万円減少している。

出所：決算短信よりフィスコ作成

セグメント別の業績は次の通りである。国内食品事業の国内小売部門では、特設ウェブサイトの設置やイベントの開催、TVer や TVCM 広告の投下、SNS での情報発信などを積極的に行った。特に正月商品は、プロモーションやセット品を展開したことが奏功し、蒲鉾や伊達巻、これらをパッケージした商品などが順調に推移した。惣菜は、競争環境の厳しい麺状商品は苦戦したが、中華まんじゅうや中華餃子、玉子加工品が非常に好調だった。主力のスリミ製品は、カニカマやはんぺんは伸長したものの、夏場の高気温が長引いたことや店頭での販促競争激化の影響によりやや苦戦となった。商事部門では、日本食品や水産物、資材の販売が好調だった。利益面では、エネルギー価格や運賃の上昇、事業活動の積極化に伴うコスト増などの一方、増収効果に加え、上昇局面に入ったとはいえ原材料の冷凍すり身価格の安定が寄与した。この結果、国内食品事業の売上高は59,228百万円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は2,278百万円（同1.3%増）となった。

海外食品事業では、米国市場において、カニカマなどスリミ製品が堅調に推移、農畜産物の輸出で円安メリットも発生したが、施策の遅れにより Healthy Noodle (糖質0g 麺) が苦戦した。中国市場においては、新たに和食チェーン店向けにタイ工場製品を導入したが、個人消費の回復遅れや日本産水産物の輸入規制の影響により販売が大きく減少した。利益面では、海上運賃は高騰したものの、円安効果及びカニカマなど高付加価値自社製品の売上構成比上昇により利益率が向上した。この結果、海外食品事業の売上高は8,364百万円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益は662百万円（同4.0%増）となった。食品関連事業では、主力の物流事業が新規顧客や既存顧客の配送エリアの拡大、正月商戦や外食店向けの物量増により好調だったほか、工場の入退出管理システムなどの販売増で情報部門も順調に推移した。利益面では、人件費や各種コストは増加したものの、共同配送の積載率向上、料金改定、機械化推進、配送コース最適化などにより採算改善が進んだ。この結果、食品関連事業の売上高は15,163百万円（前年同期比8.2%増）、セグメント利益は972百万円（同14.8%増）となった。

2025年3月期業績見通し

(単位: 百万円)

	24/3 期 3Q		25/3 期 3Q		前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	115,610	100.0%	110,951	100.0%	4.2%
営業利益	4,736	4.4%	4,727	4.3%	0.2%
経常利益	4,056	4.1%	4,221	3.8%	-3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,880	2.7%	2,855	2.6%	0.9%

※ 25/3 期より会計方針を変更、24/3 期については弊社が推定した遡及適用後の数値を使用。
出所: 決算短信よりフィスコ作成

2025年3月期の業績見通しについて、同社は期初予想通り、売上高 110,951 百万円（前期比 4.2% 増）、営業利益 4,727 百万円（同 0.2% 増）、経常利益 4,221 百万円（同 3.9% 減）、親会社株主に帰属する中間純利益 2,855 百万円（同 0.9% 増）と見込んでいる。例年第 3 四半期 3 ヶ月は、スリミ製品と惣菜の需要が高まること、12 月におせち料理など正月商品の売上が集中することから、通期業績の大半を占めることになるが、第 3 四半期累計業績がおおむね想定内の推移と推測されることから、通期業績は会社予想線への着地が想定される。なお、国内食品事業において、「中期経営計画 2026」に沿って機能の集約・強化を図っているが、2025年1月1日の株式会社北食に続き、2025年4月1日に株式会社紀文西日本を吸収合併することで、経営資源の適正配分と効率的な活用を進める計画である。本合併は同社の完全子会社との合併であるため、今来期の連結業績への影響は軽微とのことである。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp